

## アダプテッド・スポーツ

科目責任者 枝 伸彦  
学年・学期 1学年・1学期

### I. 前 文

医学教育においては、「人の命に深く関わり健康を守るという医師の職責を十分に自覚し、多様性・人間性を尊重し、利他的な態度で診療にあたりながら、医師としての道を究めていく」（参照：医学教育モデル・コア・カリキュラム）というプロフェッショナル教育が重要とされている。本講義では、障がい者や高齢者を含む全ての人々が参加して楽しむことができる「アダプテッド・スポーツ」について知識を深め、医師を志す者として、全ての人々の健康を守る上でのスポーツの役割について考察する。

※実習中心の講義のため、受講者数の上限を15名とする。

### II. 担当教員

枝 伸彦（基本医学 基盤教育部門 健康スポーツ科学）

### III. 一般学習目標

運動やスポーツを実施する上で、個々の発達状態や身体の状態に適合させる（adapt）ことの重要性を理解し、実践できる能力を養う。また、グループワークやスポーツ活動を通して、コミュニケーション能力・リーダーシップ・協調性の育成を図る。

### IV. 学修の到達目標

1. 障がい者や高齢者の特性を理解する。
2. 運動によって得られる健康効果および社会的効果を理解する。
3. 運動実施における個々の特性への適合方法を習得する。
4. 障がい者や高齢者におけるリスクマネジメントを習得する。
5. 積極的なコミュニケーションを通して、チーム医療に必要な能力を育成する。

### V. 授業計画及び方法 \* ( ) 内はアクティブラーニングの番号と種類

(1：反転授業の要素を含む授業（知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態。)

2：ディスカッション、ディベート 3：グループワーク 4：実習、フィールドワーク 5：プレゼンテーション

6：その他)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブ ラーニング
1	4	24	水	5	アダプテッド・スポーツ概論	枝 伸彦	2
2	5	1	水	5	アダプテッド・スポーツ実習①「キンボール」	枝 伸彦	3, 4
3		8	水	5	アダプテッド・スポーツ実習②「シットイングバレーボール」	枝 伸彦	3, 4
4		15	水	5	アダプテッド・スポーツ実習③「インディアカ」	枝 伸彦	3, 4
5		22	水	5	アダプテッド・スポーツ実習④「ボッチャ」	枝 伸彦	3, 4
6		29	水	5	アダプテッド・スポーツ実習⑤「ブラインドスポーツ」	枝 伸彦	3, 4
7	6	5	水	5	アダプテッド・スポーツの医学的考察	枝 伸彦	5

VI. 評価基準（成績評価の方法・基準）

授業態度・出席（60%）、レポート課題（40%）

VII. 教科書・参考図書・AV資料

必要な資料等は適宜配布する。

VIII. 質問への対応方法

随時、受け付ける。

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

\*◎：最も重点を置くDP    ○：重点を置くDP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能、種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い、他者に説明することができる。	
	種々の疾患の診断や治療、予防について原理や特徴を含めて理解し、他者に説明することができる。	
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け、正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け、患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	○
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け、患者やその家族、あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	○
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	○
	書籍や種々の資料、情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し、自らの学修に活用することができる。	
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち、専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち、実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し、自らの行動に反映させることができる。	○
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け、自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	○
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポート課題について、適宜、フィードバックを行う。

XI. 求められる事前学習、事後学習およびそれに必要な時間

シラバス別冊に記載。

XII. コアカリ記号・番号

PR-02-01-01, PR-02-02-01, PR-02-02-02, GE-04-01-04, SO-04-01-02